

卷 末 資 料

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	高規格道路 中九州横断道路 一般国道57号 滝室坂道路
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性 ■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比 (B/C) = 0.7 (経済的純現在価値 (B-C) = -154億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 2.6%) 残事業：費用便益比 (B/C) = 1.3 (経済的純現在価値 (B-C) = 104億円、経済的内部収益率 (EIRR) = 5.7%)

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 円滑なモビリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 現運等の年間渋滞損失時間 (人・時間) 及び削減率 □ 現運等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される □ 現運又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される ■ 現運等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する □ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる □ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる 	<p>区間b (当該区間/並行区間) について：国道57号並行現道区間 (阿蘇市波野～阿蘇市一の宮) 並行区間等 (当該区間の渋滞損失時間：2.4万人・時間/年) 並行区間等 (当該区間の渋滞損失削減率：7割削減)</p> <p>国道57号を通るバス路線 (14本/日) の利便性向上 (熊本～大分) 都市間バス：やまびこ号 (熊本～大分) (14本/日) [全事業・残事業] 約5分短縮 [整備前約244分⇒整備後約239分]</p>
物流効率化の 支援	<ul style="list-style-type: none"> □ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる ■ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上 □ 現運等における、総重量25tの車両もしくは150規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する 	<p>農林水産品を主体とする地域名：JA阿蘇管内 (阿蘇市、南阿蘇村、高森町、小国町、南小国町、産山村) (JA阿蘇⇒熊本地方卸売市場) [全事業・残事業] 約6分短縮 [整備前約130分⇒整備後約130分]：国道57号滝室坂道路 (阿蘇市波野～阿蘇市一の宮)</p>

1. 活力	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である <input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する <input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり <input type="checkbox"/> 中心市街地内で行う事業である <input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km ² 以下である市街地内での事業である <input type="checkbox"/> DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する <input type="checkbox"/> 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる		
	国土・地域ネットワークの構築	<input type="checkbox"/> 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)の位置づけあり <input checked="" type="checkbox"/> 高規格道路の位置づけあり <input type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する(A'路線としての位置付けがある場合) <input checked="" type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する <input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間を解消する <input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する <input checked="" type="checkbox"/> 日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	高規格道路 中九州横断道路 熊本(熊本地方生活圏(中心都市)へのアクセス向上が見込まれる(大分市⇒熊本市)[全事業、残事業]約5分短縮[整備前約228分⇒整備後約223分]:国道57号滝室坂道路(阿蘇市波野~阿蘇市一の宮) 熊本(熊本地方生活圏(中心都市)へのアクセス向上が見込まれる(波野支所⇒熊本市)[全事業、残事業]約6分短縮[整備前約125分⇒整備後約119分]:国道57号滝室坂道路(阿蘇市波野~阿蘇市一の宮) 竹田(竹田から阿蘇地域へのアクセス向上が見込まれる(竹田市⇒阿蘇ファームランド)[全事業、残事業]約5分短縮[整備前約65分⇒整備後約60分]:国道57号滝室坂道路(阿蘇市波野~阿蘇市一の宮)	
		個性ある地域の形成	<input type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する <input checked="" type="checkbox"/> 主要な観光地へのアクセス向上が期待される <input type="checkbox"/> 新規整備の公共施設へ直結する道路である	

2. 暮らし	<p>歩行者・自転車 のための生活 空間の形成</p> <p>無電柱によ る美しい町並 みの形成</p> <p>安全で安心で 暮らしたいの 確保</p> <p>安全な生活 環境の確保</p> <p>災害への備え</p>	<p>自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の全てに該 当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安 全性の向上が期待できる</p> <p>交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整 備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される</p> <p>対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り</p> <p>市街地又は歴史的景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）等の幹線道路において 新たに無電柱化を達成する</p> <p>■ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる</p> <p>阿蘇消防本部産山波野分駐所⇒熊本赤十字病院 [全事業・残事業：約5短縮（整備前約91分⇒整備後約86分） 国道57号滝室坂道路（阿蘇市波野～阿蘇市一の宮）</p>
3. 安全	<p>現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又 は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる</p> <p>当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交 通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は半量、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量 500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される</p> <p>近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する</p> <p>対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置 づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）とし て位置づけあり</p> <p>■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する</p> <p>代替する緊急輸送道路名：国道57号 代替する区間：阿蘇市波野～阿蘇市一の宮</p>	<p>並行する高速度ネットワークの代替路線として機能する（A路線としての位置づけがある場合）</p> <p>現道等の防災点検又は震災点検対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消さ れる</p> <p>■ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する</p> <p>国道57号 滝室坂地区：異常気象時事前通行規制区間（連続雨量170mm以上）の解消</p>
4. 環境	<p>対象道路の整備により削減される自動車からのCO₂排出量</p> <p>● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO₂排出量</p> <p>● 現道等における自動車からのNO_x排出削減率</p> <p>● 現道等における自動車からのSPM排出削減率</p> <p>現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待され る区間がある</p> <p>□ その他、環境や景観上の効果が期待される</p> <p>□ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり</p> <p>□ 他機関との連携プログラムに位置づけられている</p> <p>□ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる</p>	<p>CO₂排出削減量：3,908t-CO₂/年（全・残事業）</p> <p>評価対象区間（並行区間等）：国道57号対象区間（阿蘇市波野～阿蘇市一の宮） 排出削減量：25.3 t-NO_x/年、排出削減率：約10割削減（全・残事業）</p> <p>評価対象区間（並行区間等）：国道57号対象区間（阿蘇市波野～阿蘇市一の宮） 排出削減量：1.5 t-SPM/年、排出削減率：約10割削減（全・残事業）</p>
5. その他	<p>他のソフト との関係</p> <p>その他</p>	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道57号	滝室坂道路	6.3km	高規格	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
7,700	2	九州地方整備局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和3年度		
単純合計	580億円	36億円	616億円
うち残事業分	337億円	36億円	373億円
基準年における 現在価値 (C)	568億円	14億円	582億円
うち残事業分	307億円	14億円	321億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和3年度			
供用年	令和8年度			
単年便益 (初年便益)	14億円	1.9億円	0.39億円	17億円
基準年における 現在価値 (B)	377億円	42億円	9.2億円	428億円
うち残事業分	377億円	42億円	9.2億円	428億円

③ 結果

費用便益比（事業全体）	0.7
経済的純現在価値（事業全体）	-154億円
経済的内部収益率（事業全体）	2.6%
費用便益比（残事業）	1.3
経済的純現在価値（残事業）	107億円
経済的内部収益率（残事業）	5.7%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	7,700	±10%	0.6～0.8
事業費	580億円	±10%	0.7～0.8
事業期間	13年	±20%	0.7～0.7

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	7,700	±10%	1.2～1.5
事業費	337億円	±10%	1.2～1.5
事業期間	4年	±20%	1.3～1.3

交通状況の変化

様式-3①

事業名：一般国道57号 滝室坂道路

(推計時点R12年) (事業全体・残事業)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [バイパス等] : 6.3km	交通量	[台/日]	0	7,700	
	走行時間	[分]	0.0	4.7	
	走行時間費用	[億円/年]	0.0	7.2	
②主な周辺道路	現道(国道57号) : 9.6km	交通量	[台/日]	7,600	500
		走行時間	[分]	17.8	16.3
		走行時間費用	[億円/年]	26.2	1.3
	(一)小池野永谷線 : 9.2km	交通量	[台/日]	1,200	1,200
		走行時間	[分]	20.6	20.6
		走行時間費用	[億円/年]	4.9	4.7
	(主)別府一の宮線 : 20.3km	交通量	[台/日]	5,000	4,900
		走行時間	[分]	39.1	39.0
		走行時間費用	[億円/年]	42.0	41.2
	一般国道265号 : 9.2km	交通量	[台/日]	2,700	2,700
		走行時間	[分]	19.1	19.1
		走行時間費用	[億円/年]	10.3	10.3
	(主)南小国波野線 : 17.9km	交通量	[台/日]	1,900	1,700
		走行時間	[分]	33.0	33.0
		走行時間費用	[億円/年]	12.1	11.4
③その他道路合計 6213.4km	走行時間費用	[億円/年]	10,659.67	10,655.07	
			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 6285.9km	走行時間短縮便益	[億円/年]	10,755.18	10,731.08	24.10

事業名：一般国道57号 滝室坂道路



費用便益分析の条件

事業名:一般国道57号 滝室坂道路

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	令和3年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (R12)
		複数時点での推計	<input type="checkbox"/>
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
		整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ の推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H22センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他()	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)	その他()	<input type="checkbox"/>	
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線などが混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度	<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載	その他()	<input type="checkbox"/>

(3)

項目		チェック欄		
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
			採用した休日係数	() %
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載			
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	(6、40) 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載 ・過去20年間の対象地区におけるアメダス情報(連続雨量140mm以上:事前通行規制)から年間6日を設定 ・過去20年間の対象地区における災害履歴から10年に1回40日を設定	
とり止め交通を考慮する			<input type="checkbox"/>	
とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載				
冬期交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する	<input type="checkbox"/>		
	考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日	
		採用した冬期日数の考え方を記載		
冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載				
交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
	その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>		
走行時間短縮・ 走行経費減少・ 交通事故減少 以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する	<input type="checkbox"/>		
その他				

事業名:一般国道57号 滝室坂道路

(4)

項目		チェック欄		
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用	<input type="checkbox"/>	
		標準投資パターンを採用	<input checked="" type="checkbox"/>	
		その他(概略事業計画による値を採用)	<input type="checkbox"/>	
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該区間を管轄する事務所における直轄国道の維持管理費実績に基づき算出		
	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	<input type="checkbox"/>	
	当該道路整備が行われない場合の費用	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	事業費を考慮	<input type="checkbox"/>
			維持管理費を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>
			当該道路整備が行われない場合の費用を考慮した理由及び考え方を記載(対策内容、費用等) ・当該地域では実績から概ね10年に1度被災しており、その確率で今後も被災した場合、通行止め仮復旧のための施設整備費が必要となるが、対象道路が整備されることにより不要となることから、この費用(H24仮橋整備実績[6億円])を維持管理費から控除した。	
その他				
4. その他				
.....				
.....				
.....				
.....				
.....				
.....				
.....				

費用の現在価値算定表

事業名：一般国道57号 滝室坂道路（事業全体）					維持管理費の単価単価の算出(消費税相当額含む)		
					単価(億円)	延長(km)	単価(億円)
				0.23	6.3	1.45	
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単価	現在価値	単価	現在価値
-13年目	H 25	1.3686	96.4	0.48	0.68		
-12年目	H 26	1.3159	98.7	1.67	2.25		
-11年目	H 27	1.2653	100.2	1.67	2.13		
-10年目	H 28	1.2167	100.3	4.91	6.02		
-9年目	H 29	1.1699	100.5	17.33	20.42		
-8年目	H 30	1.1249	100.4	50.83	57.63		
-7年目	R 1	1.0816	101.2	54.14	58.55		
-6年目	R 2	1.0400	101.2	54.55	56.73		
-5年目	R 3	1.0000	101.2	57.27	57.27		
-4年目	R 4	0.9615	101.2	65.25	62.74		
-3年目	R 5	0.9246	101.2	138.50	128.05		
-2年目	R 6	0.8890	101.2	67.63	60.12		
-1年目	R 7	0.8548	101.2	65.45	55.95		
供用開始年次	R 8	0.8219	101.2			1.32	1.08
1年目	R 9	0.7903	101.2			1.32	1.04
2年目	R 10	0.7599	101.2			1.32	1.00
3年目	R 11	0.7307	101.2			1.32	0.96
4年目	R 12	0.7026	101.2			1.32	0.93
5年目	R 13	0.6756	101.2			1.32	0.89
6年目	R 14	0.6496	101.2			-4.68	-3.04
7年目	R 15	0.6246	101.2			1.32	0.82
8年目	R 16	0.6006	101.2			1.32	0.79
9年目	R 17	0.5775	101.2			1.32	0.76
10年目	R 18	0.5553	101.2			1.32	0.73
11年目	R 19	0.5339	101.2			1.32	0.70
12年目	R 20	0.5134	101.2			1.32	0.68
13年目	R 21	0.4936	101.2			1.32	0.65
14年目	R 22	0.4746	101.2			1.32	0.63
15年目	R 23	0.4564	101.2			1.32	0.60
16年目	R 24	0.4388	101.2			-4.68	-2.05
17年目	R 25	0.4220	101.2			1.32	0.56
18年目	R 26	0.4057	101.2			1.32	0.53
19年目	R 27	0.3901	101.2			1.32	0.51
20年目	R 28	0.3751	101.2			1.32	0.49
21年目	R 29	0.3607	101.2			1.32	0.48
22年目	R 30	0.3468	101.2			1.32	0.46
23年目	R 31	0.3335	101.2			1.32	0.44
24年目	R 32	0.3207	101.2			1.32	0.42
25年目	R 33	0.3083	101.2			1.32	0.41
26年目	R 34	0.2965	101.2			-4.68	-1.39
27年目	R 35	0.2851	101.2			1.32	0.38
28年目	R 36	0.2741	101.2			1.32	0.36
29年目	R 37	0.2636	101.2			1.32	0.35
30年目	R 38	0.2534	101.2			1.32	0.33
31年目	R 39	0.2437	101.2			1.32	0.32
32年目	R 40	0.2343	101.2			1.32	0.31
33年目	R 41	0.2253	101.2			1.32	0.30
34年目	R 42	0.2166	101.2			1.32	0.29
35年目	R 43	0.2083	101.2			1.32	0.27
36年目	R 44	0.2003	101.2			-4.68	-0.94
37年目	R 45	0.1926	101.2			1.32	0.25
38年目	R 46	0.1852	101.2			1.32	0.24
39年目	R 47	0.1780	101.2			1.32	0.23
40年目	R 48	0.1712	101.2			1.32	0.23
41年目	R 49	0.1646	101.2			1.32	0.22
42年目	R 50	0.1583	101.2			1.32	0.21
43年目	R 51	0.1522	101.2			1.32	0.20
44年目	R 52	0.1463	101.2			1.32	0.19
45年目	R 53	0.1407	101.2			1.32	0.19
46年目	R 54	0.1353	101.2			-4.68	-0.63
47年目	R 55	0.1301	101.2			1.32	0.17
48年目	R 56	0.1251	101.2			1.32	0.16
49年目	R 57	0.1203	101.2	-4.44	-0.53	1.32	0.16
合計				575.22	568.02	35.91	13.88
単純事業費計				579.66		35.91	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を用いたものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

事業名: 一般国道57号 滝室坂道路 (残事業)

					単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
					0.23	6.3	1.45
年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-4年目	R 4	0.9615	101.2	65.25	62.74		
-3年目	R 5	0.9246	101.2	138.50	128.05		
-2年目	R 6	0.8890	101.2	67.63	60.12		
-1年目	R 7	0.8548	101.2	65.45	55.95		
供用開始年次	R 8	0.8219	101.2			1.32	1.08
1年目	R 9	0.7903	101.2			1.32	1.04
2年目	R 10	0.7599	101.2			1.32	1.00
3年目	R 11	0.7307	101.2			1.32	0.96
4年目	R 12	0.7026	101.2			1.32	0.93
5年目	R 13	0.6756	101.2			1.32	0.89
6年目	R 14	0.6496	101.2			-4.68	-3.04
7年目	R 15	0.6246	101.2			1.32	0.82
8年目	R 16	0.6006	101.2			1.32	0.79
9年目	R 17	0.5775	101.2			1.32	0.76
10年目	R 18	0.5553	101.2			1.32	0.73
11年目	R 19	0.5339	101.2			1.32	0.70
12年目	R 20	0.5134	101.2			1.32	0.68
13年目	R 21	0.4936	101.2			1.32	0.65
14年目	R 22	0.4746	101.2			1.32	0.63
15年目	R 23	0.4564	101.2			1.32	0.60
16年目	R 24	0.4388	101.2			-4.68	-2.05
17年目	R 25	0.4220	101.2			1.32	0.56
18年目	R 26	0.4057	101.2			1.32	0.53
19年目	R 27	0.3901	101.2			1.32	0.51
20年目	R 28	0.3751	101.2			1.32	0.49
21年目	R 29	0.3607	101.2			1.32	0.48
22年目	R 30	0.3468	101.2			1.32	0.46
23年目	R 31	0.3335	101.2			1.32	0.44
24年目	R 32	0.3207	101.2			1.32	0.42
25年目	R 33	0.3083	101.2			1.32	0.41
26年目	R 34	0.2965	101.2			-4.68	-1.39
27年目	R 35	0.2851	101.2			1.32	0.38
28年目	R 36	0.2741	101.2			1.32	0.36
29年目	R 37	0.2636	101.2			1.32	0.35
30年目	R 38	0.2534	101.2			1.32	0.33
31年目	R 39	0.2437	101.2			1.32	0.32
32年目	R 40	0.2343	101.2			1.32	0.31
33年目	R 41	0.2253	101.2			1.32	0.30
34年目	R 42	0.2166	101.2			1.32	0.29
35年目	R 43	0.2083	101.2			1.32	0.27
36年目	R 44	0.2003	101.2			-4.68	-0.94
37年目	R 45	0.1926	101.2			1.32	0.25
38年目	R 46	0.1852	101.2			1.32	0.24
39年目	R 47	0.1780	101.2			1.32	0.23
40年目	R 48	0.1712	101.2			1.32	0.23
41年目	R 49	0.1646	101.2			1.32	0.22
42年目	R 50	0.1583	101.2			1.32	0.21
43年目	R 51	0.1522	101.2			1.32	0.20
44年目	R 52	0.1463	101.2			1.32	0.19
45年目	R 53	0.1407	101.2			1.32	0.19
46年目	R 54	0.1353	101.2			-4.68	-0.63
47年目	R 55	0.1301	101.2			1.32	0.17
48年目	R 56	0.1251	101.2			1.32	0.16
49年目	R 57	0.1203	101.2		0.00	1.32	0.16
合計				336.83	306.86	35.91	13.88
単純事業費計				336.83		35.91	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を用いたものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

事業名：一般国道57号 滝室坂道路（事業全体・残事業）

Table with columns for year (年次), GDP, current value, walking time savings, walking cost savings, and total value. Rows include annual data from R3 and a final '合計' (Total) row.

様式記入上の留意点

1. 再評価の場合、事業全体分、残事業分それぞれ作成する。